

2017年3月期 上期 決算概要

テルモ株式会社
常務執行役員 IR・広報室担当
北畠 一明

2016年11月10日

2017年3月期 上期決算の概要について説明いたします。

為替影響を乗り越え、営業利益は過去最高

(億円)

	15年度上期	16年度上期	増減率	為替除く 増減率
売上高	2,592	2,451	-5%	+5%
粗利益	1,394 (53.8%)	1,360 (55.5%)	-2%	+8%
一般管理費	844 (32.6%)	803 (32.8%)	-5%	+5%
研究開発費	159 (6.1%)	163 (6.6%)	+3%	+11%
営業利益	391 (15.1%)	394 (16.1%)	+1%	+11%
(のれん等償却除く)	493 (19.0%)	486 (19.8%)	-2%	+10%
経常利益	358 (13.8%)	306 (12.5%)	-14%	
純利益	270 (10.4%)	204 (8.3%)	-24%	

期中平均レート	USD	122円	105円
	EUR	135円	118円

- 売上高 : 為替を除き日本・海外ともにプラス伸長。心臓血管は継続して二桁伸長
- 営業利益 : カテーテルを中心とした高収益品の拡大、品質システム改善コスト減で増益
- 経常利益 : 為替差損66億円。外貨建て債権圧縮によりQ2の差損減少
- 純利益 : 為替差損と前年同期の土地売却益の影響で減益



2/22

上期決算の総括です。

売上高は前年同期比5%減の2,451億円となりました。為替の影響を除くと、日本および海外の全ての地域で増収、心臓血管カンパニーの売上高も二桁伸長となり、全社では5%の増収となりました。

営業利益は、為替の影響を吸収し、前年同期比1%増の394億円となりました。為替の影響を除くと11%の増益、また、上期業績予想355億円に対しても11%上回る結果となりました。カテーテルを中心とした高収益品の売上拡大に加え、テルモカーディオバスキュラーシステムズ社（以下TCVS）のアナーバー工場における品質システム改善コスト減などが寄与しました。

経常利益は、為替差損を66億円計上したことにより、前年同期比14%減となりました。一方、外貨建て債権の圧縮により、第2四半期の為替差損は第1四半期に比べて減少しました。次のページで詳しく説明いたします。

純利益は、為替差損に加えて前年同期に本社（渋谷区幡ヶ谷）の土地売却益44億円を計上した影響により、前年同期比24%減となりました。これらの影響を除くと、ほぼ前年同期並みの水準です。

外貨建て債権を圧縮し、営業外為替変動リスクを縮小

- USD建て債権はFY15末\$600M→FY16Q2末\$100M程度に圧縮
- 上期差損実績：66億円 (FY16 Q1：55億円、Q2：11億円)

	レート推移 (円)			上期実績 (億円)	
	15年度末	16年度Q1末	16年度Q2末	16年度Q1	16年度Q2
USD	112.68	102.91	101.12	-46	-9*
人民元	17.39	15.46	15.14	-5	-1
EUR	127.70	114.39	113.36	-3	0
その他通貨		-		-1	-1
計		-		-55	-11

*Sequent Medical買収送金時に生じた差損7億円を含む



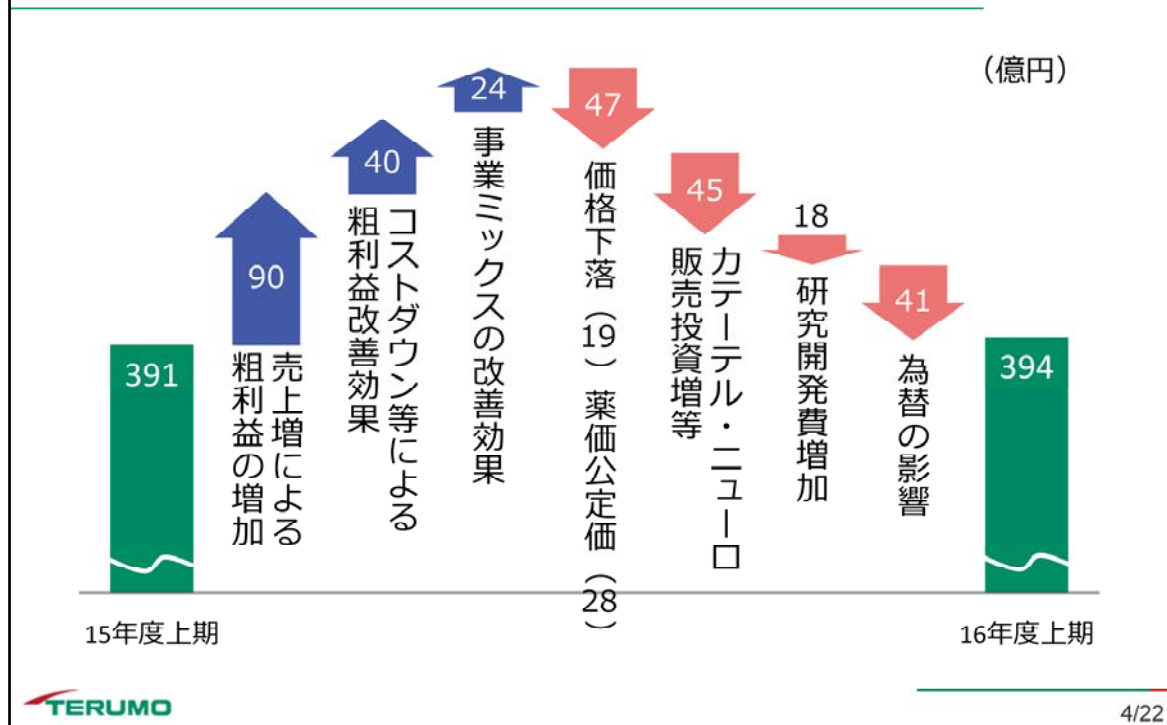
3/22

為替差損の発生を抑制するため、第1四半期より外貨建て債権の圧縮を実施しています。その結果、第1四半期の為替差損は55億円でしたが、第2四半期は11億円に減少しました。

なお、第2四半期に発生した米ドルでの差損の内、7億円はSequent Medical買収に伴う送金時に生じた差損です。したがって、第2四半期の実質的な差損は4億円です。

米国の新大統領就任に伴い、今後も為替変動リスクが想定されますが、影響を抑制できる見込みです。

営業利益増減分析



営業利益の増減分析です。

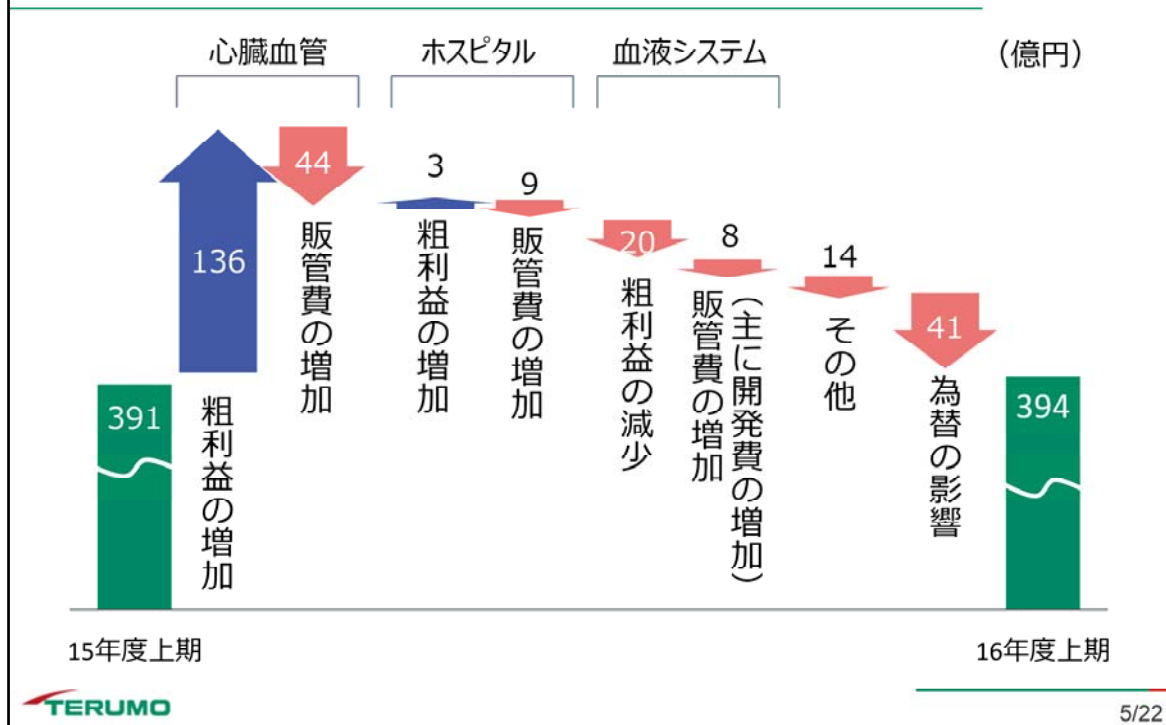
第1四半期から、概ね基調は変わっておりません。最大の増益要因は、売上増による粗利益の増加でプラス90億円でした。

コストダウン等による粗利益改善効果は、プラス40億円でしたが、内第1四半期がプラス39億円でしたので、第2四半期があまり増えていないように見えます。その理由を説明いたします。

2015年度は、第1四半期から第2四半期にかけて、日本でのUltimaster販売開始に備えて生産量を増やしたため、プラスの原価差異が15億円増えています。この影響により、2016年度の第2四半期は前年同期比での改善額が縮小しています。また、愛鷹工場、山口工場での増産対応に伴うエンジニアの増員、米国工場におけるワーキングレター対応等もコスト増要因となっています。加えて、事業ミックスの改善効果の定義を一部見直した結果、コストダウン等による粗利益改善効果が4億円減る一方、事業ミックスの改善効果が4億円増えたことも影響しています。

カテーテル、ニューロバスキュラー事業の販売投資増等はマイナス45億円となりました。両事業では、米国を中心に営業人員の採用に加えて、医師に技術的な説明やトレーニング等を行うフィールドクリニカルの人員を増やしています。これらの費用増を含め、心臓血管カンパニー全体で約35億円のマイナスです。その他、金利低下に伴う日本での年金コスト増、事業税の増加により約10億円のマイナスです。

営業利益増減分析



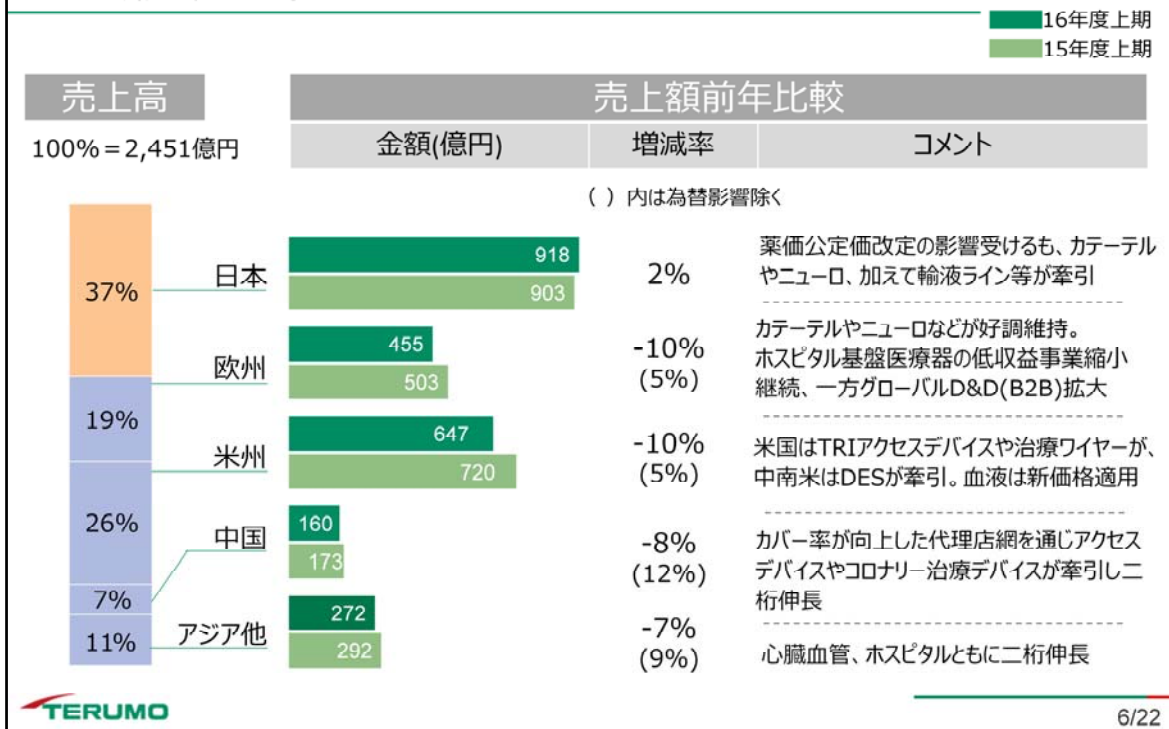
カンパニー別の営業利益の増減分析です。

心臓血管カンパニーは、粗利益の増加により、全社の利益増に大きく貢献しました。

ホスピタルカンパニーは、第1四半期が粗利益で1億円のマイナスでしたが、上期はプラス3億円となりました。日本でポンプや輸液ライン等、高収益品の売上が伸長していることに加え、アジアや中南米での値上げなどが寄与しました。

血液システムカンパニーは、第1四半期は粗利益の減少と販管費の増加で計24億円のマイナスでしたが、第2四半期は計4億円とマイナス幅が改善しました。販売管理費の増加は、第1四半期に、顧客向けの開発費が一時的に増えたことが主な要因です。

地域別売上高



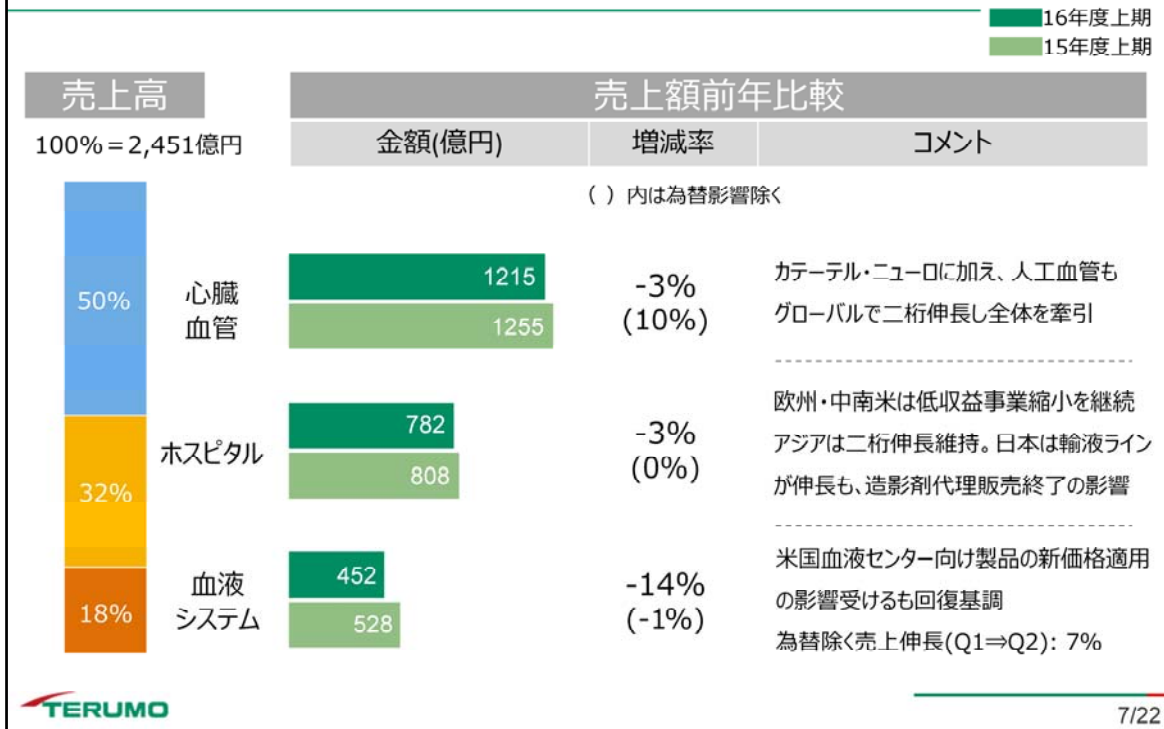
地域別の売上高です。

為替の影響を除くと全地域で増収となりました。

欧州では、為替の影響を除くと前年同期比5%増となりました。カテーテルやニューロバスキュラー事業が好調を維持しました。基盤医療器事業は、低収益事業の縮小により為替の影響を除くベースで減収となりましたが、強化を図っているグローバルD&D事業ではB2Bビジネスが堅調に推移し、増収となりました。

米州では、為替の影響を除くと5%増となりました。カテーテル事業の売上は二桁伸長となりましたが、血液システムカンパニーは、前年度下期における米国血液センター向け新価格適用の影響により、減収となりました。

カンパニー別売上高

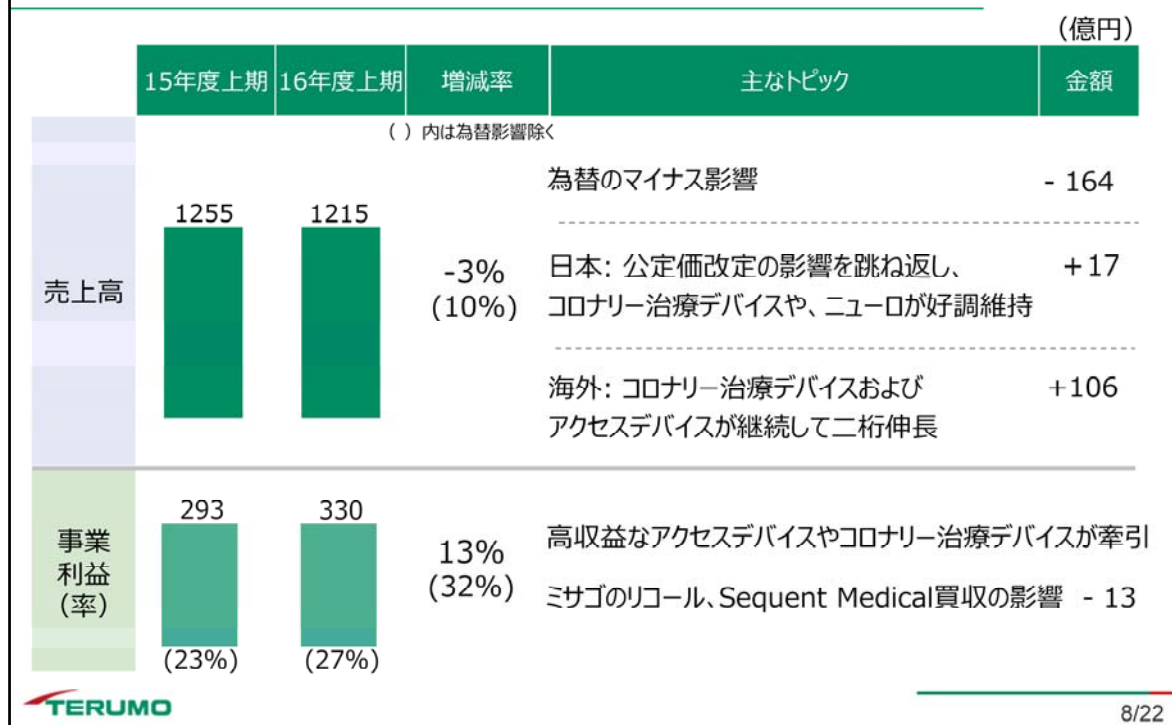


カンパニー別の売上高です。

為替の影響を除くと、心臓血管カンパニーは前年同期比10%増、ホスピタルカンパニーは横這い、血液システムカンパニーは1%減でした。

血液システムカンパニーの業績は、2015年度第4四半期から2016年度第1四半期が底と見ていましたが、想定通り、第2四半期の売上高は第1四半期比で7%増となりました。

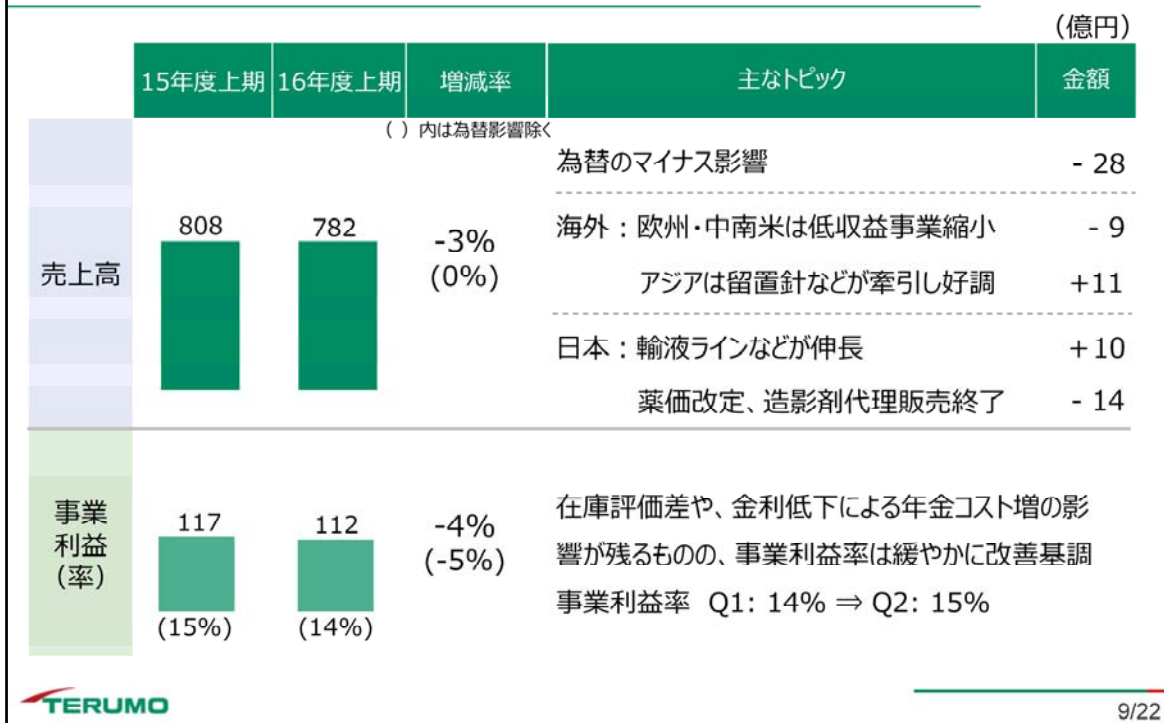
心臓血管：高収益なアクセスデバイス、 कोरोナリー治療デバイスが牽引し二桁増益



心臓血管カンパニーの売上高は、最も大きく為替の影響を受け、前年同期比3%減となりました。為替の影響を除くと10%増です。

事業利益は、第1四半期から基調は変わらず、為替の影響をカバーして二桁伸長となりましたが、ミサゴのリコールおよびSequent Medical買収に伴う費用増で計13億円のマイナスの影響がありました。

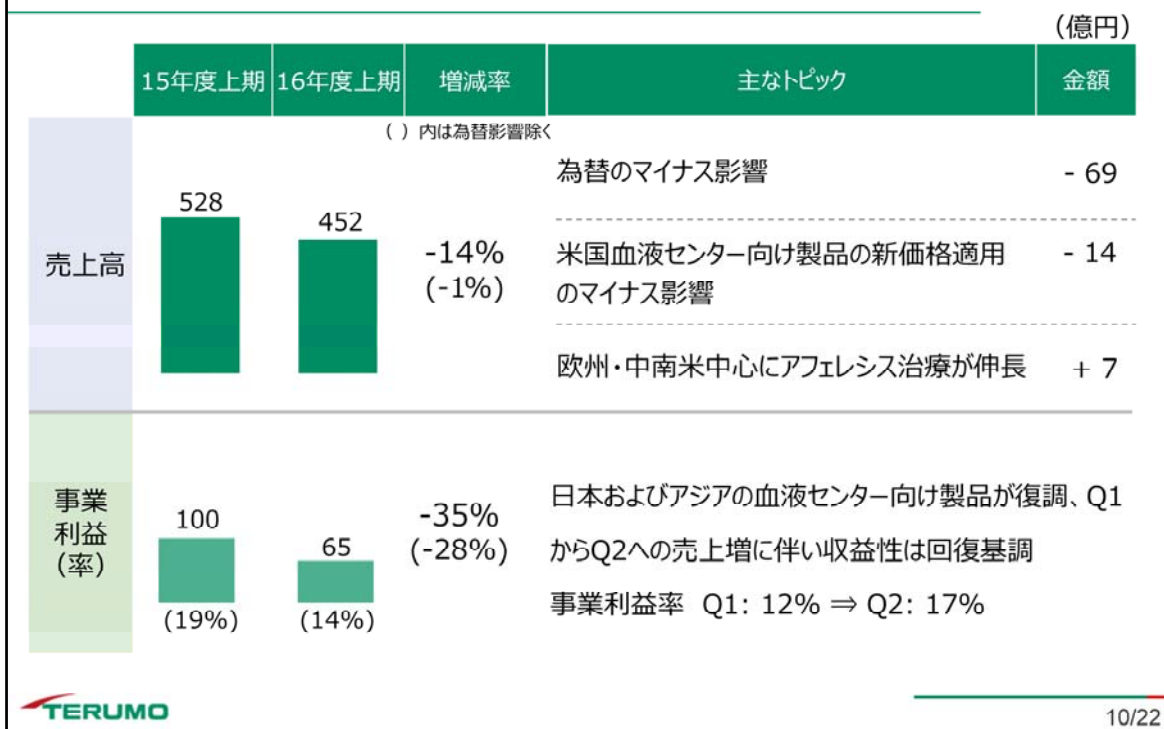
ホスピタル：薬価改定や低収益事業縮小で減収も、収益性は改善基調



ホスピタルカンパニーの売上高は、前年同期比3%減、為替の影響を除くとほぼ前年と同水準となりました。海外では欧州・中南米の低収益事業の縮小、日本では薬価改定及び2015年度第3四半期の造影剤の代理販売終了に伴うマイナスの影響がありました。

事業利益率は、第1四半期から第2四半期にかけて1ポイント改善し、緩やかな改善基調となりました。

血液システム: 米国新価格適用のマイナス影響は上期で概ね一巡



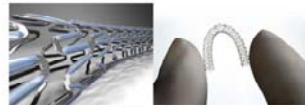
血液システムカンパニーの売上高は、前年同期比14%減、為替の影響を除くと1%減でした。

第1四半期と第2四半期を比較すると、売上高は為替の影響を除くと7%増、事業利益率も、第1四半期の12%から、第2四半期は17%へと大きく改善しています。売上の増加に加えて、第1四半期に一時的に増加した開発費が、第2四半期には元の水準に戻ったことも事業利益率の改善に寄与しています。

Q2 主なトピックス

全社

- 成長投資資金の保有を目的にシンガポールに新会社設立（8月）
- ハートシートが「産学官連携功労者表彰・厚生労働大臣賞」受賞（8月）
- 2016年度グッドデザイン賞受賞（9月）



「Ultimaster」



「テルバックエコ」



「ロイコメFCフィルムフレッシュング」

事業

- 日本で血液自動製剤化システム「TACSI」ローンチ（7月）
- 日本で「Ultimaster」4mmローンチ（8月）
- 日本で採血用穿刺器具「メディセーフファインタッチⅡ」ローンチ（9月）



11/22

第2四半期の主なトピックスです。

16年度パイプライン製品のローンチ状況

領域	製品	地域	ローンチ	領域	製品	地域	ローンチ
心臓	DES (Ultimaster)	◎ ★ 仏	済み	CV	遠心ポンプ装置	重	
	DES (Ultimaster) 4.0mm品種追加	◎ ★ 日	済み	再生	ハートシート	★ 日	済み
イメージング	IVUS	◎ ★ 日		D&D	皮内投与デバイス	★ 日	FY17 予定
ペリフェラル	PTAバルーン (膝下, RX/OTW)	日・米・欧 日米 済み			癒着防止材	★ 日	承認済み Q4発売
	PTAバルーン (膝上・下両用, RX/OTW)	日・米・欧 日米 済み		DM	血糖計 (フィットスマイル)	中	
	PTAバルーン (膝上, RX/OTW)	日・米・欧 済み		血液	自動製剤化システム	★ 日	済み
脳	プロテクションデバイス	欧					
オンコロジー	放射線塞栓ピーズ (Quirem)	★ 欧					

◎ 業績貢献 大、★ イノベーション度 高



12/22

2016年度の製品パイプラインです。開発およびローンチは順調に進捗しています。

業績予想の修正

- 為替影響およびSequent Medical買収の影響を考慮し業績予想を修正

(億円)

	売上高	営業利益	経常利益	純利益
従来予想	5,170	750	710	525
今回修正予想	5,170	750	650	475
修正額	-	-	-60	-50

為替レート 下期 USD=105円、EUR=115円
通期 USD=105円、EUR=116円

- 下期業績のポイント

- 海外カテーテルが好調という基本トレンドは変わらず
- 止血デバイス等買収が成立した場合の一時的な利益への影響
- 経常利益以下は、年度末の為替レートの変動によって変わる可能性あり



13/22

業績予想の修正について説明いたします。

今回、下期想定レートをドル105円、ユーロ115円に、通期想定レートを1ドル110円、1ユーロ125円から、1ドル105円、1ユーロ116円へと見直しました。また、上期での為替差損、通期でのSequent Medical買収に伴う影響を考慮し、経常利益、純利益をそれぞれマイナス60億円、マイナス50億円修正しました。売上高、営業利益には変更ありません。

下期の業績のポイントは3点です。第一に、海外のカテーテル事業が好調という基本的トレンドは変わらないと見ています。第二に、止血デバイス等の買収が成立した場合の一時的な利益への影響は、現時点では計算できないため、営業利益の予想値には含めておりません。一方、売上高については、為替によるマイナスの影響が見込まれますが、本買収が年度内に成立した場合、売上が増える可能性もあるため、予想値を変更しておりません。第三に、経常利益以下は、年度末の為替レートの変動により変わる可能性があります。

なお、本日決議しました中間配当金及び期末配当金の予想額には変更ございません。

会計基準の変更

■2018年3月期決算からIFRSを適用

➢2018年3月期	Q1~Q3 期末	日本基準ベース IFRSベース
-----------	-------------	--------------------

■グローバルスタンダードへ変更

- 財務情報の国際的な比較が容易に
- グループ会計基準統一による経営管理とガバナンスの強化

■変更の主な収益影響

- 日本基準におけるのれん償却は行わない



14/22

最後に会計基準の変更について説明いたします。

2018年3月期決算よりIFRSを適用することを決定しました。当社の競合は欧米企業が多いため、会計基準をグローバルスタンダードに変更することで、財務情報の国際的な比較が容易になります。また、これまでは、テルモ本体と海外子会社で会計基準が異なる場合がありましたが、今後はテルモグループで基準を統一することで、経営管理とガバナンスの強化を図ります。

IFRS適用に伴い、日本基準で毎年実施していたのれん償却がなくなり、営業利益の押し上げ要因となります。ご参考までに、前年度ののれん償却額は約110億円でした。

以上で説明を終わります。ご清聴ありがとうございました。

参考資料

事業別 地域別売上高と伸長率

(億円)

事業 セグメント	日本	海外					合計
		計	欧州	米州	中国	アジア	
心臓血管	245 (+8%)	970(+10%)	304 (+8%)	420(+10%)	128(+15%)	118(+12%)	1215(+10%)
うちカテーテル※	189 (+10%)	777(+12%)	247 (+9%)	311(+12%)	121(+14%)	98 (+15%)	966(+11%)
ホスピタル	615 (-1%)	168 (+4%)	38 (-11%)	37 (+3%)	10 (+9%)	83 (+12%)	782 (+0%)
血液システム	57 (+3%)	395 (-2%)	112 (+1%)	190 (-4%)	22 (-3%)	71 (-0%)	452 (-1%)
合計	918 (+2%)	1533(+6%)	455 (+5%)	647(+5%)	160 (+12%)	272 (+9%)	2451 (+5%)

※ニューロバスキュラー事業含む
()内は為替影響除く対前年同期伸長率



16/22

販管費

(億円)

	15年度上期	16年度上期	増減	増減率	為替除く 増減率
人件費	382	363	-19	- 5%	+6%
販促費	81	75	-6	- 7%	+3%
物流費	55	55	-0	- 0%	+5%
償却費	140	124	-16	- 11%	+0%
その他	186	186	+0	+ 0%	+9%
一般管理費計	844 (32.6%)	803 (32.8%)	-41	- 5%	+5%
研究開発費	159 (6.1%)	163 (6.6%)	+4	+3%	+11%
販管費合計	1,003 (38.7%)	966 (39.4%)	-37	- 4%	+6%

四半期の動き

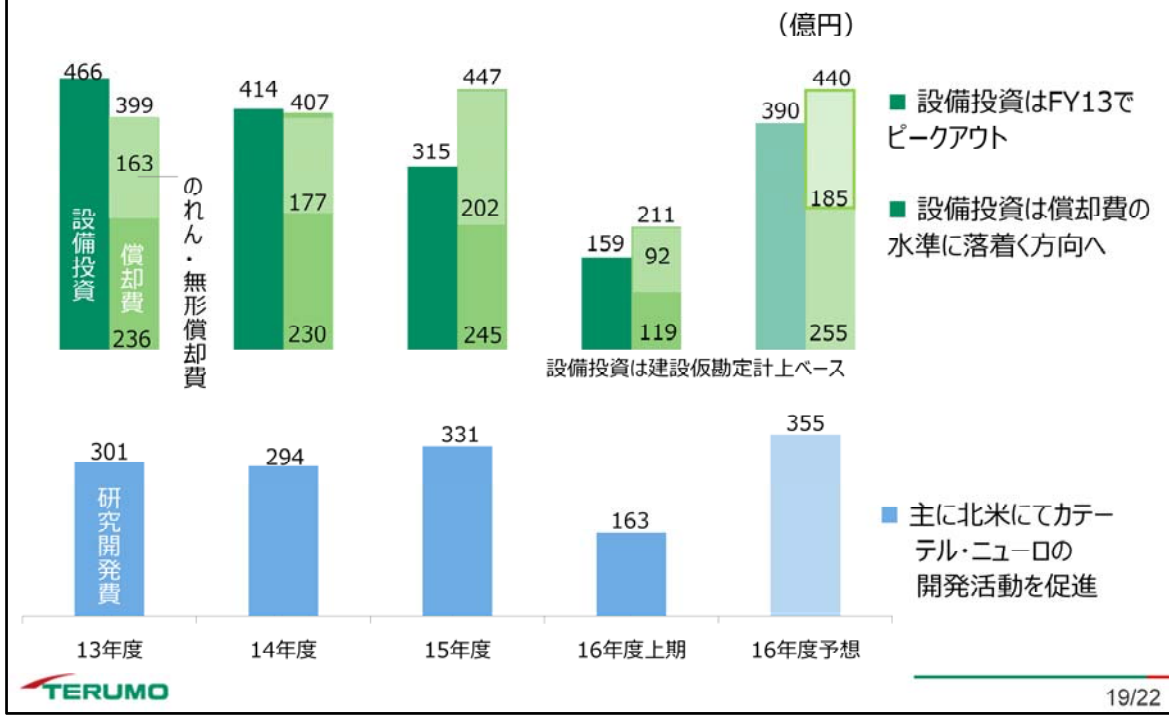
(億円)

	15年度Q2 (7-9月)	Q3 (10-12月)	Q4 (1-3月)	16年度Q1 (4-6月)	Q2 (7-9月)
売上高	1,305	1,368	1,290	1,245	1,206
粗利益	704 (53.9%)	753 (55.0%)	703 (54.4%)	698 (56.0%)	663 (55.0%)
販管費	427 (32.7%)	429 (31.3%)	428 (33.1%)	403 (32.3%)	401 (33.3%)
開発費	80 (6.1%)	74 (5.4%)	99 (7.7%)	81 (6.5%)	82 (6.8%)
営業利益	197 (15.1%)	250 (18.3%)	176 (13.6%)	214 (17.2%)	180 (14.9%)
のれん等償却 除く営業利益	248 (19.0%)	301 (22.0%)	225 (17.4%)	259 (20.8%)	226 (18.8%)
四半期 平均レート	USD 122円	121円	115円	108円	102円
	EUR 136円	133円	127円	122円	114円

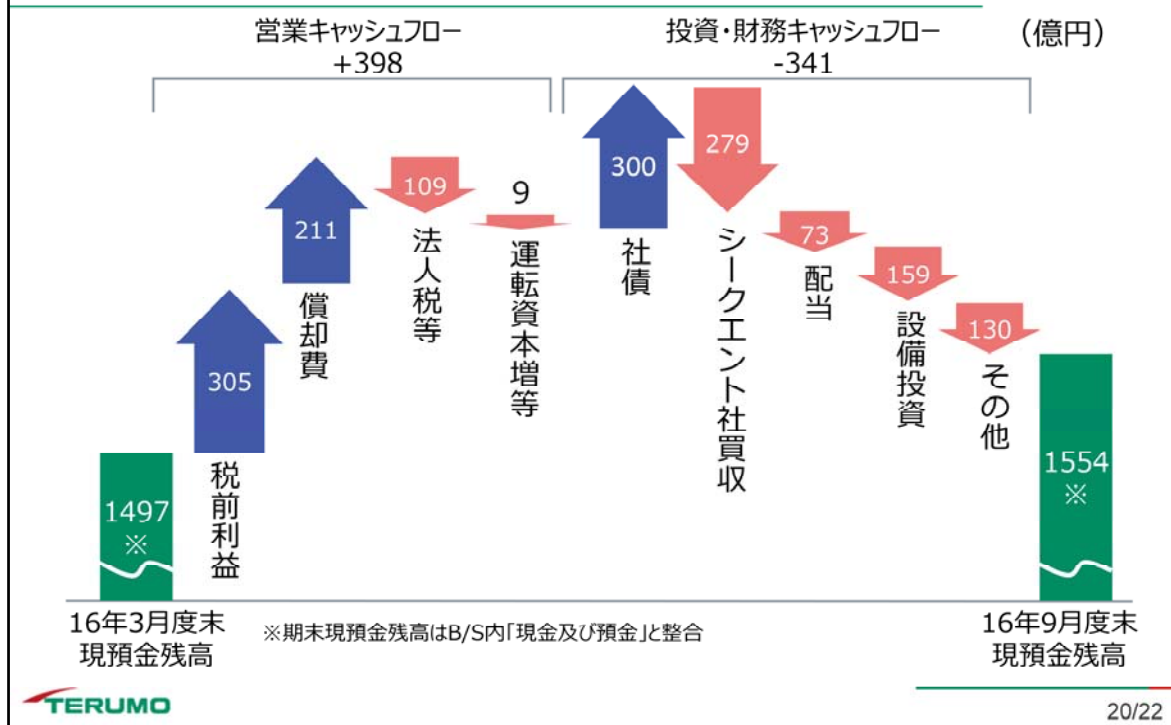


18/22

設備投資と研究開発費



キャッシュフロー



為替感応度

(億円)

	USD		EUR
	のれん等償却 除く	のれん等償却 含む	
売上高	14	14	5
営業利益	0	-2	3

おことわり

テルモの開示資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、当社としてその実現を約束する趣旨のものではありません。様々な要因により、実際の業績等が変動する可能性があることをご承知おきください。実際の業績に影響を与えうる重要な要素には、テルモの事業領域を取り巻く経済情勢、為替レートの変動、競争状況などがあります。